

モンベル トライ&キャリアの キッズ・アドベンチャー + 読図講習会

アジア選手権者の高橋が普及事業を通じて見たオリエンテーリングの未来



普及活動の分野へ

世界舞台で活躍するという目標を掲げて、約10年間日本代表としてオリエンテーリングにかかわってきたが、昨年のアジア選手権優勝を機に（少なくともフット0では）活動の軸足を普及活動に移しつつある。理由は様々あるが、その一つの理由としてオリエンテーリングの裾野を広げることが長い目で見た代表強化につながるはずだという思いがあった。

そういった中、村越さんから子ども向けのオリエンテーリングイベント運営のお誘いを受けた。多少迷ったが村越さんの「子どもたちに勇気をもらえるよ」という一言でお手伝いすることを決めた。

トライ&キャリアとは

トライ&キャリアとは株式会社モンベルが主催するアウトドアイベントである。カヌーやカヤックの展示・試乗・即売会をメインとするが、そのほかにも様々なアトラクションやコンサート、アウトドアプログラムが同時開催されている。イベントのゲストは世界的なオカリナ奏者、有名シンガーソングライター、アウトドア雑誌にエッセイを連載するエッセイストなど各方面の著名人で会場はとても賑やかであった。

その中のプログラムの一つとして読図講習会とキッズアドベンチャーを2日間に渡って行った。

キッズアドベンチャー

・読図講習会の概要

キッズアドベンチャーはトライ&キャリアの会場と会場に隣接する林をテラインとしてフリーポイント形式で行った。コースは小学校低学年、高学年・

中学生向けの2つを準備した。子どもたちが集まりしだい、競技説明を行って随時スタートさせる。ポイントは全部で10個前後あり、競技時間は3分〜1時間程度とかなり幅があったが概ね30分程度で終了した。2日間でのべ131名の子どもたちがオリエンテーリングを楽しんだ。

読図講習会は講義+実技を1時間半かけて行った。全体で3回の講習を行い、各回10名弱の受講者に対して登山に必要な読図技術やコンパスの利用方法を解説した。運営は石川県、富山県のオリエンテーリング協会の方々、金沢市在中の円井夫妻の協力を得て行った。

キッズアドベンチャー

受付に集まった子どもたちに地図の読み方やルールを教え、一斉にスタートさせる。子どもたちがフラッグを目指して蜘蛛の子を散らすように飛び出す景色はとてもほほえましい。5分もかからずゴールする子、会場内で右往左往しながらフラッグを探し、少しアドバースすると「わかったー!」と一目散に走り出す子、同じコースを何度も走ってタイムを縮める子、藪と格闘したことを自慢げに説明する子など様々な子どもたちの姿があった。

ゴールしてすぐに「もう一回行きたい!」と父親にせがむ子どもの様子を見ると、オリエンテーリングは好奇心の塊のような子どもたちを夢中にさせる魅力がぎゅっと詰まったスポーツなのだ改めて感じるができる。また、そういう子どもたちを見て本当にうれしく感じている自分を再発見することができた。オリエンテーリングという冒険は子どもたちの好奇心を刺激し、独立心を育てるとても良い教材だと感じる。

読図講習会

中学生から中高年まで幅広い年齢層の受講者が集まった。講習内容は地図記号から始まり、等高線の読み方（尾根や谷、地形の特徴をつかむ）、コンパスの使い方、道に迷わないための方法などオリエンティアにとっては基本的な内容である。

しかし、こういった基本的な知識こそとても重要であり、また一般の方にとって必要な内容なのだと思う。登山

やハイキング、山スキー、マウンテンバイクと山の中に入る理由は人それぞれであるが、それぞれが読図やコンパスの使い方などのナビゲーション技術を少なからず必要としている。受講者の感想からそういった需要を知ることが出来たのは収穫だった。

オリエンテーリングの可能性

子どもたちにオリエンテーリングを楽しんでもらう。読図講習会で地図の読み方やコンパスの使い方を通してオリエンテーリングを宣伝する。こういった活動がオリエンティア人口の増加に対して即効果があるかは分からない。

日本代表として競技に携わり、オリエンテーリングは激しく厳しい知的スポーツであると力説してきた自分にとってレクリエーション性を前面に押し出すことに違和感を持たないわけではない。しかし、オリエンテーリングはやり方によって多くの人を満足させる、とても懐の深いスポーツであることもまた事実だと思う。

沢山の人のオリエンテーリングの幅広い側面を知ってもらい、多様な選択肢を提供する。そういう意味で、競技オリエンテーリングのみならず、子ども向けオリエンテーリング体験会やロゲイニング、読図講習会などを開催することはとても意義のあることであり、未来につながる活動であると感じる。

「オリエンテーリングって楽しい! もう一回やりたい!」村越さんの言葉通り、子どもたちから沢山の勇気をもたらした2日間だった。



(高橋善徳)